

## スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果

大 学 名	千葉大学
整理番号	B01
構 想 名	グローバル千葉大学の新生 – R i s i n g C h i b a U n i v e r s i t y –

### ◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価)  <b style="font-size: 2em;">A</b>	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント) 本構想は、「4つの改革による大学の新生」という目標を掲げ、学長直轄組織を整えて「4つの改革」、「3つの力の育成」、「4つの独自目標」を軸に「グローバル千葉大学」を目指すものである。構想の実現に向け、全学を対象とした英語教育の改革、入試改革の取組み、教育制度の国際標準化、ダブル・メジャー設置に向けたプログラムの設置、大学院の総合国際学位プログラムの設置、海外拠点の整備と海外キャンパスでのプログラム実施、学内環境の国際化等、様々な取組を着実に実施している。 継続的で一貫したサポート体制の構築、教職協働の仕組みとしての SULA の試みも高く評価できる。新設された国際教養学部は倍率も留学率も確実に上昇しており、順調に卒業生を輩出している。学生の意識改革も進んでおり、取組の成果が出ていると見受けられる。加えて、ENGINE プランを実行し、学生全員の留学、英語履修単位の倍増、スマートラーニングの推進等、引き続き国際化に邁進する大学の姿勢が認められる。 SGU 事業の成果を起爆剤とした全学対象のプログラム拡張は、財政支援期間終了後を見据えた自走化に向けた優れた展開として評価できる。また、事業縮小ではなく 20%の学費値上げに踏み込む攻めの経営姿勢や発展的自走化戦略は、今後の大学改革の可能性としても期待できる。総合国際学位プログラム等の構想を超えたアウトカムの創出、学内ガバナンスの継続的な強化等、大学全体のチャレンジ意識も高く、今後も先端的グローバル大学へのさらなる発展が期待できる。 一方で、学部における目標値に対して実績が著しく低いところが見られる。問題点は把握されており、それらに対する具体策が既に検討されており、引き続き、達成に向けた戦略が求められる。 また、恒久的な財源として有償型プログラムが検討されているが、それぞれのプログラムへの学生の参加率を注視し、検証しながら進めていく必要がある。コンテンツの検討には引き続き力を注ぐことが期待される。	